



「こんにちは 市長です」

7月1日号

1129億7千万円余り、これが本年度の6月補正後の予算。当初は846億6千万円だったわけだから283億1千万円増えたということ。一人10万円の特別定額給付金など新型コロナによる景気減速を補うためのもの。市単独のものを8億円弱加えたが、ほとんどは国負担である。青天井の国補正の感がある。市はそのあおりを受けて空前絶後の補正になった。国のコロナ対策全てが借金である。いずれ、国民全員で返済をしていくことになる。

「大型事業は見送ってコロナ対策に回せ」という質問が議会であった。みんなが苦しんでいるのに自分だけは普通にお給料もらって、というのは自分の性に合わない。副市長、教育長を巻き添えにして私が3割、お二人には2割の給与削減をした。市単独のコロナ対策には小規模事業者へ10万円だけでなく、飲食店支援を目的に18歳以下の子どもを持つ世帯への食事券1万円、下宿をする大学生のいるひとり親家庭への10万円給付などなど、国の支援策を補うものにした。これらコロナ対策と大型事業を同列に置くことには賛成できないと質問に答えた。なぜなら、新体育館、駅前の再開発事業、水道の布設替え、緑町・赤堀の土地改良事業、義務教育学校は国などの補助金が確定しているもので財政的には有利にまちづくりを進めることができる事業だからである。「今年は国の補助金はお断りします」はほとんど事業を断念するに等しい。それはできない。ただ、国の補助金が付かない事業を精査して先送りするのは別段問題がない。

議会で「プレミアム付き金券」発行の提案があった。秋から暮れ、セールがお店で始まる。それに合わせて「1万円で1万2500円分の金券」はどうか。コロナ後だからこそ元気がでます。10万円の特別定額給付金を残しておいてください。

(6/19記)